

源治罷出候處、益田三郎左衛門方、別紙の  
通半間中へ相達候様授有之候二門付、早速の  
及廻達候事

(別紙なし)

同十六日同断

同十九日同断

月番 山崎十郎左衛門・大谷小源治

万延貳西正月七日

御用の儀有之候條御土居罷出候様申来候方  
付吉賀直人候御出候處、居罷出候様申来候方  
被立候趣は、當儀門より見於懸被仰候御座候間、  
手相致さ、上度差銘可儀申候事、  
尤勝手此段他御沙汰候様二と仰候儀共、  
苦候、及廻達候事、  
右段早速及廻達候事、  
其右段早速及廻達候事、

同廿五日

御用の儀有之候條御土居罷出候様申来候方  
申渡候間、早速及廻達候事、  
別紙左の通り

来月九日英館於日新堂、祭儀被仰付候儀、  
付心懸次第聞合の儀は、正六ツ時罷出候儀、  
罷出仕度銘々、の儀は、正六ツ時罷出候儀、  
可相達候事

服織の改銘の事、  
出勤の改銘の事、  
右の通り被仰付候事

右の通り被仰付候事

俣賀次郎左衛門・吉賀直人

万延二西ノ二月五日

御用の儀有之候段申来候付、松原茂一郎罷  
出候處、益田三郎左衛門方より別紙の通  
り被申渡候儀、  
別紙左の通り

高島流、教練、去秋御取立以来、日稽古被仰付

置候處、弥以無怠、可為出候事、  
十條、日、弥、以、無、怠、可、為、出、候、事、  
候、日、弥、以、無、怠、可、為、出、候、事、

調付、八天、氣、三、拾、日、の、満、雨、を、主、二、被、仰、付、候、事、  
勝手次、第、被、仰、付、候、事、  
勝手次、第、被、仰、付、候、事、

朝七時割、  
右高島流、教練、より、四ツ時迄、  
右高島流、教練、より、四ツ時迄、

右高島流、教練、より、四ツ時迄、

右高島流、教練、より、四ツ時迄、

但稽古、人数合せ、間稽古の儀、八勝手次

四ツ時、  
右高島流、教練、より、四ツ時迄、

九ツ時、  
右高島流、教練、より、四ツ時迄、

但稽古、人数合せ、間稽古の儀、八勝手次

六ツ時、  
右高島流、教練、より、四ツ時迄、

五ツ時、  
右高島流、教練、より、四ツ時迄、

四ツ時、  
右高島流、教練、より、四ツ時迄、

三ツ時、  
右高島流、教練、より、四ツ時迄、

二ツ時、  
右高島流、教練、より、四ツ時迄、

一ツ時、  
右高島流、教練、より、四ツ時迄、

事

付り 講釈日の儀八剣槍稽古講後相始候事

一 劍槍稽古 是迄日割被仰付候所、日限り稽古中は日替二修業被仰付候事

一 射術・拔刀・礼式の儀八右日限中休業二被仰付候事

一 槍術・稽古・十の休日は是迄通り余り被仰付候事

一 古召、甚くも不試合稽古二候者右付二片日限稽古

一 儀不被留候も尤合稽古二候者右付二片日限稽古

一 諸士中四拾五歳已下拾五歳已上の銘々は、筋骨の強弱二不拘、教練場々勤修業被仰掛

一 次第修業引可有之、歳已上相調り共儀も掛

一 稽古場為立、成、丈差を以出席仕候様

一 仰付候事 儀は被差免迄の儀八病氣支り等其時二達しの

一 日限稽古中は面着一面二シテ名前頭え、業付二シテ仕出候様被仰付候事

一 拾五歳未満の面々八素読手跡の修業肝要

一 事を以出勤可へ八不及日勤、素読手習の間相

一 日限稽古中猥はり館外罷出候儀候一統分被差留

候

候へ付届の極々差添有之節八其趣教練御用所

一 右の通り被仰付候条銘々心得違無之様出精可有之候事

同(万延二西ノ二月)九日

一 御用の儀有之候段申来候二付松原惣兵衛

一 罷出候所、益田三郎左衛門方より被仰付候事

一 伯母御束有之様、右付妙玄院様昨日御渡

一 日御様御束有之様、右付妙玄院様昨日御渡

一 西ノ二月、松原茂市郎・松原宗兵衛

一 万延二西ノ三月十六日

一 御用の儀有之候段申来候二付小原勘右衛門

一 門罷出候処、益田三郎左衛門方より別紙

一 別紙左の通り

一 御家来中未々二迄、頼母子其外諸借へ

一 近來甚く申出裏判所取可、質限又相論候様見

\* 妙玄院 吉敷毛利房直(出雲)室 益田房清の姉(房清は吉敷毛利より)

(万延二二年は二月十九日迄)

不能申、年限未満の分とも不残付五月中限  
り裏判所差出、改を受候様被仰付候事

付り頼母子年限は相立候ても取引半途の  
部も可有之哉、夫等の分八其趣覚書相添  
本文物限の通裏判所差出候様被仰付候事

一 町浦屋敷券又は質入証文等、是迄は浦  
庄屋敷年奇奥印の物の上二而已、取捌キ候処、

已来裏判所奥印の被仰付候事

付り是迄庄屋年奇奥印のミの分も此度改  
メ被仰付候条、所持の者は前断の物限無  
相違裏判所差出候様被仰付候事

一 地方田畠山林等質入証文等奥印其外惣て  
庄屋畔頭取捌の儀は行成の通無相違候事

右の通此度改て沙汰被仰付候条心得違ひ有  
候ても不御及御沙汰候事 至後日差添申出

付り御家来中未々二至迄萩御番勤又八他  
出留守の部八、銘々親類申様取り可有之  
候達し、物限等閑二打過不申様取り可有之

\* 裏判に表書の事を証明するため書類の裏  
\* 奥印に署名捺印するに個人が事実を証明す  
\* しめるため書類の終りに押す印  
\* めり調える、しまること  
\* ゆきなり  
\* 行成(行形)成り行き

酉ノ三月(文久元年)

一 御家来中下人召抱候節、是迄八届出二被  
相濟候処、御詮儀の趣有、是迄八届出二被

儀仰候へ共、所無余儀参懸二願出候時八成  
儀二候へ共、所無余儀参懸二願出候時八成

上状何被細分、沙汰可被仰付候惣八て、銘御  
何被細分、沙汰可被仰付候惣八て、銘御

際成有之事候へ八、たと候儀八不相成  
段勿論の事も猥二下人召抱候儀八不相成

付り、為試他所他人分者八不及申御領内の者として  
己来一為向二被差留候事

付り相置、御近來下人宗門の者勝手次第町浦二  
差相聞、御厄害端の事候成者様儀有哉、之  
候時相聞、御厄害端の事候成者様儀有哉、之

酉ノ三月

小原勘右衛門・松野重内

酉ノ(文久元)六月九日

一 今朝御用の儀有之候二付仲井半四郎罷出  
候処、御益田三郎左衛門方被申渡候趣八、罷出

尚七辰御事、桂主殿方御願書被差出、過  
ル御往來等御端付無滞御被為御願書被差出、過

一段及廻達候事、非役半間中より上々様方九日  
の日断二付シテ、御披露状差出し候事

一 文案の儀文格有之候二付略之  
酉ノ六月

月番 増野弥一郎・仲井半四郎

酉ノ六月廿八日

一 五文字様御事御縁談の儀、如御願被仰出  
候段御到来有之候披露状、上々様方え差出し

申候事 其段及廻達候事

一 文案の儀は文格有之候二付略之



不申候事  
付 御祈禱物仕出候段及廻達候事

一旦那様被遊御発駕候二付、半間為惣代書置候事  
御見立申上度段、覚書を以願出

今般、旦那様江府え被遊御発駕候二付、半候惣代とシテ彦人萩被成可被見立申上度奉存候此段宜様御沙汰被成可被見立候以上

松原鉄之助・松野重内

同月(文久元酉九月)七日

今朝呼出二て松野十内罷出候処、暫職大谷利兵衛方被申渡の趣八、罷出候旦那様御参府二御願出半間惣代を以八罷出候御度此の御願出相成心入の義萩被思召候御共見立申上候様との儀授有之候事懸りより御見立申上候様及廻達候事

同月九日

今朝呼出二付松野十内罷出候処、暫職大谷利兵衛方被申渡の趣八、旦那様来ル十

一日御発駕の処 公義御差操も有之 御延引被仰出、来セル十六日被遊御発駕候段、半間中え御知セル被仰候との義二付、早速及廻達候事

松原鉄之助・松野十内

同月十七日

一旦那様御機嫌克江府為御番勤、昨十六日朝七ツ時御供遊御登城、昨五ツ半時御通非役半遊御段御披露状上々、半例の差出候事

付 日付は当役衆披露状の日付十六日二付 付 付格古文見合シテ差出候事  
付 早速及廻達候事

松原鉄之助・窪田四兵衛

同月(文久元酉九月)十八日

今朝御用の義申来窪田四兵衛御土居罷出候般、暫職大谷利兵衛御内被八調吉辰候、桂主殿様御家御御調候二付、御間同桂日御殿様御式被仰付候との義二付、早速及廻達候事

同廿日

今朝御用の義申来松原鉄之助罷出候今朝御事大谷利兵衛申渡の趣八、罷出候暫職御事内被成、調候御知被仰付候との義二付、早速及廻達候事

今般、五文字様御事御節宜様御取成可被濟候存候間、此段御序の節宜様御取成可被度奉候間、已上候事  
古文格見合日差出候事

松原鉄之助・窪田四兵衛

一 非役半間中より御歎の披露状廿日の日付  
二 シテ上々様方へ差出候事  
付 付 文格の義八古文見合仕出候事



内對相違兼御儀締御沙汰筋儀是偏の通  
 二來下御取方儀八為仰候事候儀へは迄  
 已付春市興行便中儀八御所節人相入市賑込捨可  
 申付被免候使中間儀此段御能勤候入用捨  
 ひ之行被家來中無而通大のは方々他併入込  
 興度候御差方候間大の概は節勤候入込  
 有儀付御尤無來中無而通大のは方々他併入込  
 居候儀付、尤無來中無而通大のは方々他併入込  
 ケ問敷口二儀而通大の概は節勤候入込  
 勿論、無疎事、二儀而通大の概は節勤候入込  
 達候事、十一月、山崎十郎左衛門・増野官助記之

\*\*\*  
 商市模市樂市樂座の如きものでか  
 使疎事 〃〃 手段、くめんとて  
 無疎事 〃〃 いらぬこと

文久元西ノ十二月五日

一今日御用の儀申來候二付城一隼雄御土居  
 へ罷出候處、益田三郎左衛門方より別紙  
 の通り授相成候二年の通取餅下ケ可有之候渡  
 來ル十日候、右日限無間違取餅下ケ可有之候渡  
 事仰付候、右日限無間違取餅下ケ可有之候渡  
 城一隼雄・吉賀直人

文久元西ノ十二月七日

一且那様御事、益御機嫌克順々被遊御旅行  
 先月十三日、被遊御着方え御歡の披露状  
 非役半間中より上々様方え御歡の披露状  
 差出候事、此段早速及廻達候事  
 付り、此段早速及廻達候事

一同断二付萩詰懸り衆、旦那樣え御歡の披  
 露状連名え相加差出候事、萩上々様方え御  
 一同断二付在府の衆より、萩上々様方え御

悦の披露状差出候事  
 一文書の儀八文格有之候二付略之

同(文久元西ノ十二月)十四日

一今朝御用の儀有之候段申來候二付吉賀直  
 人罷出候處、益田三郎左衛門方より別紙  
 の通り授相成候、益田三郎左衛門方より別紙

一此度別紙左の通り御供二罷越候銘々、宿々  
 儀外親族懇意月より書八状を登せ候々、  
 シを御土居差出候被仰儀候所八被差伝定手  
 々々、御居役所候儀、兼て元御役所候儀、  
 出候被仰候、御居役所候儀、兼て元御役所候儀、  
 被仰候、御居役所候儀、兼て元御役所候儀、  
 城一隼雄・吉賀直人

同(文久元西ノ十二月)十二日

一職座益田三郎左衛門方より授有之候趣は日  
 明暮御無人二付御式台御奏者組來ル廿日  
 え相り達候様詰二と被仰候間、其段御奏者中  
 城一隼雄・吉賀直人

同廿八日

一只今御用の儀有之御土居罷出候様申來候  
 二付吉賀直人罷出候處、益田三郎左衛門  
 方より別紙の通り被申渡候二付、早速及  
 廻達候事

一此度御返石の通り、來正月十六日十七日十八  
 日三日の間に、所帯方差引方二おゐて扨下  
 被仰付候事、城一隼雄・吉賀直人





有之事二付、於各毛左様致落着候間、御同意は、御名も被懸、御顔若存寄有、御衆は、其趣早速各(半)間え可被仰、聞候為其及廻達候事

同年同月(四月)廿六日

一松永左京上京二付 此内申合の通り半間中より金百疋致餞別候間、別紙の通り可<sup>被脱力</sup>成御出調候 為其及廻達候事 月番 同人

文久二戊七月十八日

一此内の御出調相揃候由にて金百疋先々々々遣シ申候右為御知せ及廻達候事 月番山崎十郎左衛門・増野弥一郎

一金百疋 右私儀上京二付所々可申上候 納餞別とシ 右御持被下候万々御礼所可申上候 致御餞別 右此度私儀上被下候所可申上候 致御餞別 右シ御参を以万々御礼所可申上候 致御餞別 右つれ参を以万々御礼所可申上候 致御餞別 右七十月八日 松永左京

\*上京 神道伝授のため

文久二戊八月朔日

今朝番呼出有之松野重内罷出候處、職役益田三郎左衛門方より別紙の通り及廻達候事 相達候様と被申渡候付、早速及廻達候事

御沙汰書写左の通

来懸ル七日育英館於新堂祭儀被出候付、心懸ル学頭へ拜聞の儀は、拜可被朝、祭儀出候、出服被相達候事、銘の事、孰も麻上下着用の事、一勤の改銘の事、八月 侯賀次郎左衛門・松野重内

文久二戊八月廿日

一今朝御土居罷出候様申来候二付松野内罷出候、別紙の通り及廻達候事、の儀二付、早速及廻達候事、愛元より京都御供の面々よりの御悔の披露状

別紙御沙汰書左の通り

毛筑前様御奥様御死去二付、寿光院様過ル、依之市中御家来中御殿罷出御悔申上候様被仰付候事 戌八月廿日

付り爰元御滞留中二付、右の通沙汰相成候事

侯賀次郎左衛門・松野重内

\*毛筑前 右田毛利元統、寿光院とは伯母甥になる、室は八月十八日死去

文久二戊八月廿八日

一月番御用の儀有之候条、今朝御土居罷出候様申来(候)二付、松野重内罷出候處、益田三郎左衛門方より別紙の通り及廻達候事、相達候様との儀二付、早速及廻達候事

付り候 右二付、上々様方へ御歡の披露状致仕出候 尤仙相院様・寿光院様二八爰元

御滞留中二分無其儀、尤京都御供非役の  
面々よりの分爰元より致仕出候事

且那様御紙別沙汰書左の通  
御前被為御事、於九都過一  
場、御奉行の御直二九月ヨリ  
二、違變の御節八二被蒙仰候  
候依之御家來中八穴戸播候  
戌八月廿八日、御知磨被仰付候事

月番 俣賀次郎左衛門・松野重内

文久二戌ノ閏八月十五日

一 差紙を以 来ル十七日病難除御祈禱とシテ  
祇園御順幸相調候依内意相達候間、  
此段半間中へ可致通達候事  
付、其段早速及廻達候事

同閏八月十八日

御用の儀有之候条御土居候様申来候左  
付松原宗兵衛の通被申渡候二役、益速及廻  
門方別紙左の通り被申渡候、早速及廻  
達候事

一 明後日御部屋方被遊御帰座候、尤此  
度の儀は眞の御忍の儀二候暇乞とシテ半  
不々御送二、御人宛御殿罷出候様被仰付  
候事々々惣代一両人宛御殿罷出候様被仰付  
閏八月十八日  
月番 吉賀直人・松原宗兵衛

同閏八月廿四日

一 只今月番御用有之候条御土居罷出候様申  
来候二付方より賀直人有之候趣は、御職式台御  
郎左衛門方より授有之候趣は、御職式台御

奏者老勤番二の処、来候人様廿二日の仰付間金、子  
新蔵儀勤者番中へ相、達候人様廿二日の仰付間金、子  
此段及廻達候事、相、達候人様廿二日の仰付間金、子  
早速及廻達候事

同日

一 同日同人職役同人方より授の趣八、候先  
達、て兵庫へ被差除候御奉行有之候被蒙仰、  
所、御家此度御差及せ仰候儀、此儀、  
御家此度御差及せ仰候儀、此儀、  
八、御家此度御差及せ仰候儀、此儀、  
段、御家此度御差及せ仰候儀、此儀、  
付、御家此度御差及せ仰候儀、此儀、  
右二付御歡の披露状差出不申候事

文久三戌九月廿七日

一 御用の儀有之候条御土居候様申来候左  
二、御門方被申渡候、是所、萩御座田三郎左  
衛門御借上被申渡候、是所、萩御座田三郎左  
分、御門方被申渡候、是所、萩御座田三郎左  
御到被遊有之候、是所、萩御座田三郎左  
候敷、御門方被申渡候、是所、萩御座田三郎左

\* 萩御上屋敷若殿様江戸住居引揚げ後の  
住居となる

文久三十月十六日

一 御用の儀有之候、大段申来候二付方より授の趣八、候先  
罷出候、申渡候、大段申来候二付方より授の趣八、候先  
通、御門方被申渡候、大段申来候二付方より授の趣八、候先

一 今般紙左の通り、過ル四日御参内、天盃被  
遊、御殿候候、御而、八、御参内、天盃被  
御到被遊有之候、御而、八、御参内、天盃被  
付候事、御殿候候、御而、八、御参内、天盃被

戌ノ十月

金子新蔵・仲井半四郎

文久二戌十一月廿一日

御用の義有之候条只今御土居罷出候様申  
来候の左衛門方窪田兵衛通半間中え相達候  
様と郎の義二門付別紙刻及廻り達候事

於公儀紙左の通り  
御一在候御紙殿の通り  
被為候段八て様旦公  
平穩申候御内近孰の追々様  
事以の白場二御て来も形御  
御帰の御被遊辛不候勢  
苦心二候共御奉入も相候  
事候ハリ候て八家頼候御  
日召候儀候御共御奉入も相候  
二召候儀候御共御奉入も相候  
被召候儀候御共御奉入も相候  
之勿論堅固儀候御共御奉入も相候

松原鉄之助・窪田四兵衛記

文久二戌ノ十二月十三日

一月番御用の儀候条只今御土居罷出候様申  
来候御方より授城有之候趣は、今般公儀御  
左衛門方より授城有之候趣は、今般公儀御  
着中、分門の儀候条只今御土居罷出候様申  
猶又、分門の儀候条只今御土居罷出候様申  
のせ候節、此段豆の外向は致し相達候様と  
授候二付、早速及廻り達候様と

文久二戌ノ十二月廿七日

一月番御用の儀候条只今御土居罷出候  
様申来り候儀有之候条只今御土居罷出候  
暫職益田二下方の授有別紙の通り、早  
廻相達候事

右御宿御免候御儀候御内返御所御沙汰有候御馳走  
御宿御免候御儀候御内返御所御沙汰有候御馳走  
儀候御儀候御内返御所御沙汰有候御馳走  
為御取候御儀候御内返御所御沙汰有候御馳走  
昨年の御儀候御内返御所御沙汰有候御馳走  
弥免御儀候御内返御所御沙汰有候御馳走

付御被仰出候事  
分村御被仰出候事  
増野弥一郎・大谷小源次記

\* 馳走米 〓 藩財政の窮乏により貢租以外に  
\* 段分 〓 知行石の多少によりて段分する

文久二戌ノ十二月廿七日

御用の儀候条只今御土居罷出候様申  
申来り候儀有之候条只今御土居罷出候様申  
益田二下方の授有別紙の通り、早速及廻り達候事  
当明暮公儀御慎内候儀二付、御門鏑りを始  
外建候御被仰候御儀候御内候儀二付、御門鏑りを始  
二準候御被仰候御儀候御内候儀二付、御門鏑りを始

被仰付候 此段内意相達候事 増野弥一郎・大谷小源次記

文久三癸亥正月四日

一御用の儀有之候段申来候二付御土居罷出之候付、暫職益田丹下方より別紙の通授有

別紙左の通

去方二月御返石の勘渡下被仰の付候間、次受第方  
え可被申出候事 亥ノ正月

同廿一日

一今朝御用の儀有之候段申来候二付吉賀直  
人罷出候處、暫職増野藤右衛門方より別紙  
紙兩通、廻達候事 へ相達候様との儀二付、別  
早速及廻達候事

過戴ル三日若殿様、御旦那様御事、此度も御遊供  
頂戴候二付て八、旦那様御事、此度も御遊供

二て被遊御参内候 御依一件万端御首尾能為濟  
候付候事 仰付候事

(文久三亥)正月廿一日

来月朔日育英館於新堂、御祭儀被仰候二  
付、心懸次第被仰候、御祭儀被仰候二  
堂儀出見被仕度候事、可相六ツ時罷出御  
祭儀拜可被相達候事、の儀上候、御祭儀被仰候二  
学頭儀見被仕度候事、の儀上候、御祭儀被仰候二  
一服職の改被相達候事、の儀上候、御祭儀被仰候二  
右の出通被仰候事、の儀上候、御祭儀被仰候二

月番 俣賀次郎左衛門・吉賀直人

文久三亥二月五日

一但那様御事、益御機嫌克先月廿二日京都  
被遊御発駕の披露状差出候事 二付、上々  
様方え御歡の披露状差出候事 二付、上々

一京都より御着の節、半間為惣代人萩罷出  
御待過日御歡申上候儀、二付、上々

其懸り過日御歡申上候儀、二付、上々  
覚 原手紙調之 猶御沙汰相成候事 二付、上々

同十四日

旦那様京都より被遊御帰座候節、半間惣代と  
此段被成御沙汰可被下候御申上候、度奉存候  
月日 月番 兩人名前

一但那様御事、一昨十二日御供方へ非役半  
り被遊御帰座候二付、上々様方へ非役半





別付候事 非常又八難差置願筋の儀八、可為格

一 萩出勤御中間被相添候物通りの儀は、大  
一 概萩御便り日二罷出候様被仰付候事  
一 年始歳暮御祝詞の節、上下着用是迄の通  
一 被仰付候事  
一 吉凶二付御勤申上候節着服の儀は、其時  
一 二沙汰可被仰付候事  
一 御年廻の御法事并御正統御先祖様御正命  
一 日御名代の節、上下着用被仰付候事  
一 付り 七月御施餓鬼御名代同断

一 育英館春秋積菜  
一 御名代を始、諸出勤拜礼同断  
一 松崎宮・白山宮正月護摩御祭事共二、御  
一 名代所勤の節同断  
一 御法事・正月・盆、御正統御先祖様御正忌  
一 日、御家来中御寺参詣同断  
一 付り 平日御命日参詣の儀、可為平服候事

一 正月元日より三日迄、只今迄の通麻上下  
一 着用の事  
一 隠居家替ト養子縁組等、如願被仰出候当  
一 日同断  
一 出付の親類、上下着用是迄の通

一 御加増拜領・新地御取立・昇進等被仰付  
一 候節、当日同断  
一 袴着并元服の節、上下着用是迄の通  
一 御家来中、祝事他家より歎とシテ罷越  
一 候者八可為平服候事  
一 年始用・盆・正統の先祖正忌日等、寺参上  
一 下着用・忌日并重キ統柄の者、焼香罷越候  
一 先祖祭忌日并重キ統柄の者、焼香罷越候  
一 節同断  
一 葬式并中陰下法事等、右へ可差留候事  
一 裕師・下・中陰下法事等、右へ可差留候事  
一 医師・下・中陰下法事等、右へ可差留候事

一 可準候事  
一 諸士中平日、割羽織・小袴着用被仰付候

付り 尤他向ハ一ツ書の通二候へ共 御領分  
中勝手次第被仰付候事  
用勝手次第被仰付候事

一家業人已下着用方の儀は、公儀品定被仰  
一 出候上、可被相定候間、先是迄の通可被  
一 心得候事  
一 三月十五日  
一 本尾官治・金子新蔵記

大公儀未曾有の改革は、参観交代の廃止と  
不凶(与風)ふと、はからずも

加のみなす  
一 加のみなす  
一 作事・に之(概)おしなべて  
一 普請・普請は土木で現代用語と逆になる

北に取(と)り、防火の面で北側に物置・土蔵  
礼切(と)きぎり、ときぎれ時刻に前  
時切(と)きぎり、ときぎれ時刻に前  
上ケ馬(と)きぎり、ときぎれ時刻に前  
あけ馬(と)きぎり、ときぎれ時刻に前

正命(と)きぎり、ときぎれ時刻に前  
中陰(と)きぎり、ときぎれ時刻に前  
上(と)きぎり、ときぎれ時刻に前  
裕下(と)きぎり、ときぎれ時刻に前  
割羽織(と)きぎり、ときぎれ時刻に前  
小袴(と)きぎり、ときぎれ時刻に前  
半袴(と)きぎり、ときぎれ時刻に前

\* 参考久三年二月十八日付、丸龜藩侯約令を

音信 贈答 吉凶 等 仲の費用 だけ 五十文

養子 婚嫁 家の客み 内限り 親類といえども送り

吉凶 取食 三種 類 膳心 際 不参 膳部 膳部 膳部

衣服 不許 膳心 際 不参 膳部 膳部 膳部

婦人 髪飾 女共 綿服 一本 禁 止 髪留

正月 添え 可娘 簡単 花 本 禁 止 髪留

正月 添え 可娘 簡単 花 本 禁 止 髪留

正月 添え 可娘 簡単 花 本 禁 止 髪留

正月 添え 可娘 簡単 花 本 禁 止 髪留

正月 添え 可娘 簡単 花 本 禁 止 髪留

正月 添え 可娘 簡単 花 本 禁 止 髪留

正月 添え 可娘 簡単 花 本 禁 止 髪留

正月 添え 可娘 簡単 花 本 禁 止 髪留

正月 添え 可娘 簡単 花 本 禁 止 髪留

正月 添え 可娘 簡単 花 本 禁 止 髪留

正月 添え 可娘 簡単 花 本 禁 止 髪留

同(文久三年三月)十七日

一の御用儀 御座候事 御用儀 御座候事 御用儀 御座候事

此度 横紙 左の 懸英 利吉 及生 利吉 及生 利吉

此度 横紙 左の 懸英 利吉 及生 利吉 及生 利吉

此度 横紙 左の 懸英 利吉 及生 利吉 及生 利吉

頃日 有横 之候 頃日 有横 之候 頃日 有横 之候

急務 越御 御座候 急務 越御 御座候 急務 越御 御座候

右去 二月 御座候 右去 二月 御座候 右去 二月 御座候

有駕 兵由 御座候 有駕 兵由 御座候 有駕 兵由 御座候

右通 従公 儀御 右通 従公 儀御 右通 従公 儀御

此度 別紙 御奉 此度 別紙 御奉 此度 別紙 御奉

切迫 船渡 勢の 切迫 船渡 勢の 切迫 船渡 勢の

海異 武前 御奉 海異 武前 御奉 海異 武前 御奉

二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の

二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の

二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の

二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の

二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の

二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の

二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の

二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の

二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の 二海 切迫 船渡 勢の

亥三月

本尾官治・金子新蔵記

文久三年亥四月七日

御用 儀御 御座候 御用 儀御 御座候 御用 儀御 御座候

急務 越御 御座候 急務 越御 御座候 急務 越御 御座候

御用 儀御 御座候 御用 儀御 御座候 御用 儀御 御座候

御用 儀御 御座候 御用 儀御 御座候 御用 儀御 御座候

御用 儀御 御座候 御用 儀御 御座候 御用 儀御 御座候

同八日

御用 儀御 御座候 御用 儀御 御座候 御用 儀御 御座候

御用 儀御 御座候 御用 儀御 御座候 御用 儀御 御座候

御用 儀御 御座候 御用 儀御 御座候 御用 儀御 御座候





【85頁】  
 黒玄米  
 実着 着実(ちやくじつ)  
 敬勝 齋 齋 齋  
 生寮を英館敷地内にある二階建の諸  
 本部となつた、育英館略参照 後北強団

同(文久三年亥四月)十九日

一御用の儀有之候段申来り候二付御土居罷  
 出候所、職役益田三郎左衛門方より、別紙  
 の通り半間中へ相達候様との儀二付、早  
 々及廻達候事

別紙左の通

御家来中所持の大小銃、和流・洋製共挺出  
 玉目二付夫々付分ケ、来ル廿四日迄二付  
 被仰付候事  
 右付出の儀八月番所へ取揃、一日二御用所  
 可被差出候事

同廿三日

一御用の儀有之候段申来候二付御土居罷出  
 候処、益田三郎左衛門方被仰渡候趣八、  
 此迄は上御滞留中(於)番法、事致手捨来  
 候二法此相調の儀八(於)授及有之捨、此  
 番中へ及廻達候事  
 間中へ及廻達候事

同廿四日

一御用の儀候条同様申来り候二付、益田三  
 郎左衛門方授ケの儀は、来ル廿六日迄二未  
 目見不衛相二濟方銘の儀は、此段早速半間  
 相成候様二と銘の儀は、此段早速半間中  
 廻達成候事

同廿五日

一御用の儀有之、同様申来り候二付罷出候  
 処、益田三郎左衛門方授ケの趣は、御式

【86頁】

台月末の交代の処人儀は、御二新蔵の相当、尚次、番  
 本尾官の治候様萩との処人儀は、御二新蔵の相当、尚次、番  
 当月末の交代の処人儀は、御二新蔵の相当、尚次、番  
 萩相成候様萩との処人儀は、御二新蔵の相当、尚次、番

同(文久三年亥四月)廿七日

一御用の儀有之候段申来り候二付御土居罷出  
 益田三郎左衛門方授ケの趣は、此段早速半間  
 被差止候段被仰渡候趣、八、此段早速半間  
 中え及廻達候事  
 月番 山崎十郎左衛門・窪田四兵衛

文久三亥五月七日

一御用の儀有之候段申来候二付御土居罷出  
 候所、職役益田三郎左衛門方被仰渡候趣八、  
 授有之候段申来候二付御土居罷出  
 付早速及廻達候事

別紙左の通り

先般從公儀、高百石、二年内銀六拾目、御下惠  
 沙汰の有候所、帯引て、御近臨の御造地は御無  
 難大御事、於て、何卒、御窮、殊は、無  
 莫候勢、共、別而、難折柄、何卒、ヨゴレ  
 之候勢、共、別而、難折柄、何卒、ヨゴレ  
 当候勢、共、別而、難折柄、何卒、ヨゴレ  
 被及、増、抱、高シ、御、折柄、何卒、ヨゴレ  
 銀被、素、節、俟、被、深、付、目、の、程、奉、戴、文、弥、御、惠  
 以、質、素、節、俟、被、深、付、目、の、程、奉、戴、文、弥、御、惠  
 武の諸奉公は、不覚及悟申可、諸事、名、の、心得を以、治  
 乱共の御奉公は、不覚及悟申可、諸事、名、の、心得を以、治  
 被仰付候事、勝手次第受方可有之候事

同(文久三年亥五月)十四日

一同断二付御土居罷出候所、増野善左衛門



八付リニ御初穂とシテ銀壺両致神納候事 尤

注文書左の通 原手紙調

御祈祷物 吉通

非役 連名 萩詰懸り同断

尤組頭御用人をは除キ御供頭御側組を

付 御除キ祈禱物致仕出候段及廻達候事

一旦那様被遊御発駕候二付、半間為惣代吉  
人萩罷出御見立申上度段覚書を以願出置  
候事

覚

今般、旦那様京都へ被遊御発駕候二付、半  
間此代とシテ吉人萩罷出御見立申上度奉、存  
候此段宜様御沙汰被成可被下候 已上

六月九日

侯賀次郎左衛門・吉賀直人

(文久三亥) 六月十日

一今朝呼出二付侯賀次郎左衛門罷出候処、

益事来此段及廻達候御知せ被仰付と筈の儀

御候、其段及廻達候御知せ被仰付と筈の儀

座付、御延引二て、十三日萩御発駕山口迄

付御出、十九日山口被遊御発駕山口迄

六月十二日

一今朝呼出二付吉賀直人罷出候処、益田三

上京二衛門方よ惚り代を以渡候趣は、旦那様

度段の御願出成及儀、入萩の儀被思召見申上、

申上儀とは不儀授有候事、御見立共、

付上様二儀と儀授有候事、御見立共、

付上様二儀と儀授有候事、御見立共、

(文久三亥) 六月十八日

一今朝呼出二付吉賀直人罷出候処、暫職益  
田勤兵衛方より別紙の通半間中へ相達候  
様との儀二付、早速及廻達候事

別紙左の通

且那様御事、京都御番手とシテ被差登候正段  
先達御内意被為蒙仰候、明御九朝候  
六ツ御半御供揃二依之山口御家来り中え御知せ被  
仰付候事有之候 依之山口御家来り中え御知せ被

六月十八日

六月廿日

一今日呼出二て吉賀直人罷出候処、暫職益  
田勤兵衛方より別紙の通半間中え相達候  
様二との儀二付、早速及廻達候事

別紙左の通り

一旦那様御事一昨十八日御山殿の上御前被  
召出、此度御上京二付御脇差并御陣羽織  
被遊御中へ領御知せ被仰付候事此段

御家来、上本々様方付え御半間候格切の披露状

事を以、上本々様方付え御半間候格切の披露状

付、上本々様方付え御半間候格切の披露状

一旦那様御事昨十九日朝六半時御目覚二て

御膳部等御快被召上、同朝五ツ半時御益

御機嫌御快被召上、同朝五ツ半時御益

知世被仰候、御尚方え御間悦申上候様被仰

露状御事、御尚方え御間悦申上候様被仰

付候事、御尚方え御間悦申上候様被仰

付候事、御尚方え御間悦申上候様被仰

付候事、御尚方え御間悦申上候様被仰

付候事、御尚方え御間悦申上候様被仰

付候事、御尚方え御間悦申上候様被仰

亥ノ六月

当番 俣賀次郎左衛門・吉賀直人

文久三癸亥七月十一日

一御用の儀有之候段申来候二付御土居罷出候処、職役益田三郎左衛門方より別紙の通り授有之候二付、及廻達候事

別紙左の通り

毎月二日・十六日京都状仕出し日限、前書法二通被仰付候条、其心得を以、已来右日限定シテ、御土居迄差出候様被仰付候事

亥七月

内藤与右衛門・松野重内

文久三亥七月廿八日

今朝三番呼出有之松野重内罷出候、職役益田三郎左衛門方よ申渡り候二付、早速及廻達候事

御沙汰書写左の通り

来月三日育英館於日新堂、祭儀被仰付候付、懸次頭被仰付候、朝五ツ調候、尤新祭儀、出見仕度銘々、の儀八、正六ツ候罷出学頭、拜可被相達候事、の儀八、正六ツ候罷出学頭、勤穢改の銘々、孰も麻上下着用の事

内藤与右衛門・松野重内

八月九日

一但那樣御事、御船中益御機嫌克順々被遊御旅行、先月十一日白七ツ時京都御屋敷へ被遊御着駕候段、御知せ有之候事  
付り、本文の儀二付、諸半間より一格切の披露状を以、上々様方へ御歡申上候様被

仰付候事 右の段及廻達候事

同(文久三亥八月)廿日

一但那樣御事、思召被為在、右衛門介様と被遊御改名候一段御家来中へ御知被仰付、尚諸御間より一段格切の披露状を以、被仰付方へ御歡申上候様被仰付候事  
付り、御歡の披露状共仕出候事、非役半間中候事、京都より萩えの分、爰元より致仕出

文久三癸亥八月四日

一御用の儀有之候段申来候二付、御土居罷出候処、職役益田三郎左衛門方より別紙の通り授有之候二付、及廻達候事

別紙左の通り

一唐銅一銅一錫一真鍮  
一右異船御手当二追付大砲一立被仰付候就て  
一八家つ中末々二至迄御所用の儀も有之候条  
一への品と候ても他所、堅く被差留候、万一分  
不心得の義於洩聞、八屹度可被及御沙汰候事  
付り、長屋者の儀八、主人々々より手堅く  
可被申付候事

一ツ書に、個条の字掲げて書く文書で、項目毎

八月十八日

一同断二付

一別紙左の通り  
他所、他国者御家来中下部、宗門二相抱へ居候  
八、敷拾五ケ年已来番所取縮の上、其人抱へ居候  
委敷書付二シテ月番所取縮の上、其人抱へ居候



一山口御番勤の銘々已来生雲市二て常磐屋惣助と申者定宿二被仰付候条、彼者方止宿候様被仰付候事  
付り万一差繰の節は惣助より、宿心遣せしめ候筈二候間右様心得の事

一宿賃者人二付払銀三匁宛往来共二被立下候間、出役兩三日已前於御銀子方、受方可有之候事  
付り歸着の節は山口於御銀子方、渡方被仰付候事

右の通り已来御定法二被仰付候事  
亥十月

大谷岩尾・内藤与三左衛門記

\*生雲市 現、阿東町生雲

同(文久三亥十月)十四日

一御用の儀有之 只今御土居罷出候様申来候二付 大谷岩尾 罷出候処、益田三郎左衛門方より別紙の通り相達候様との儀二付、早速及廻達候事

別紙左の通り

先達て御上京御供の節、明荷借用仕居候様八、来ル廿日迄二無間違、御土居差出候様被仰付候事

十月十四日

大谷岩尾・内藤与三左衛門

同十八日

今朝月番呼出有之 内藤与三左衛門罷出候処、益田三郎左衛門方より別紙の通り相達候様との儀二付、早速御奏者中え及廻達候事

別紙左の通り

此度御番帳改、被仰付、已来御奏者組三人詰日二被仰付候処、可有之候へ八、追々後の交代よ

りは三人一同二出勤交代被仰付候事  
亥十月

大谷岩尾・内藤与三左衛門記

同(文久三亥十月)十九日

今朝月番呼出二て益田三郎左衛門方別紙の通り及廻達候事  
相達候様との儀二付、其段早速

別紙左の通り

諸士中下人心懸次第、已来砲術・劍術稽古セしめ候て不苦候条、主人々々詮、儀次第申付候様被仰付候事

十月

大谷岩尾・内藤与三左衛門記

文久三亥十月

一此度無給御家人の内、人撰を以高島流銃隊組立被仰付、於外勢溜教場稽古被仰付候間、御家来中下人志有之部は姓名付上シ、引立方横山武左衛門方え付届ケの上稽古可被仰付候事

勢溜せだまり (勢留、勢屯)

同月(文久三亥十月)

一御家頼中嫡子無之年令の銘々は、兼て御大法も有之、第一当御時節の儀早々養子心遣仕可被願出候 自然等閑二打過及末期候節は断絶をも可被仰付候 此段内意相達候事

付り病身二て御軍役難相勤銘々は、早速

一当御時勢御家頼中、御役筋多端の儀二候へは、本人拾歳人物有幼少の候、願出家筋致心遣、相応の人物有幼少の候、願出家筋

〔97頁〕  
の御奉行申上候様心遣可有之候 此段内  
意相達候事

前段の通り、御沙汰書早速半間中え及廻達  
候事

★中継養子〃幼年の相続者が成長するまで  
一時家督を継ぐこと

同(文久三亥十月)廿七日

今朝月番呼出有之御土居罷出候處、益田三  
郎左衛門方より別紙の通り及廻達候事

旦那御事、仙相院様・寿光院様え御相對  
猶又御内輪御軍役御調旁、御暇の儀被仰願

付、候、御往來十日の御暇被懸御免候一  
日、今廿七日晴雨二不拘、山口御発駕二  
中へ内被遊御歸座候筈二候 依之御家頼

一御家頼中懸ケ御用人座迄二御不申上候様被仰

一御歸座申上候様被仰付候事

一御代を以申上候様被仰付候事

取散し不申様氣を付、掃除可被申付候事  
付り堀・其外取繕等二は及不申候尤御  
往來の水溜柄は荒所直し可被申付候事  
候様柄は仕直し可被申付候事

亥十月廿七日

大谷岩尾・内藤与三左衛門記

\*家頼〃(家礼、家来)中世では家礼、家来を用い近世は  
家来と書く。

文久三亥十一月二日

今朝月番呼出二て益田三郎左衛門方より別  
紙の通り半間中え相達候様との儀二付、其

〔98頁〕  
段早速及廻達候事

別紙左の通り

高島流大砲打方於館中、日稽古被相立候、  
就いては御家頼中右様被仰付候事  
金山慎吾入門仕候様被仰付候事

十一月

城一隼雄・窪田四兵衛記

同(文久三亥十一月)七日

今朝月番呼出二て、益田三郎左衛門の方より  
別紙の通り早速及廻達候事

別紙左の通り

松原平左衛門殿 松本尾官殿  
栗山観十郎殿 本松唯次殿  
増野勝太郎殿 松原亮殿  
大谷融殿 内藤亮殿  
小城隼雄殿 山崎左衛門殿  
松原茂一殿 侯田昌左衛門殿  
金賀新蔵殿 多窪田兵衛殿  
吉野重蔵殿 井上井半殿  
松原宗兵衛殿 井上井半殿  
右原宗兵衛殿 井上井半殿  
二被召連合可有之候事

方御聞合可有之候事 尤書の細儀は益田丹下  
御召連合可有之候事

十一月

城一隼雄・窪田四兵衛

同九日

一当時は御勢二付御家来中未々二迄甲冑着用  
二て此度は人繰の御休息御用繁二付、召候

御間合不被為在、追而可被仰出候間 其内



銘々用意可有之候 尤思召の旨有之今般

御上京御供の人数を以、来ル十一日行軍操練被仰付候段被仰出候事

【99頁】

来ル十一日朝六(ツ)時揃二て行軍操練被仰付候事  
御軍勢揃場内外勢留御門内目拜礼相立候所へ夫々伍列を正居可申候事  
腰付兵糧用人召連候様被仰付候事  
槍持忝人手人召連候様被仰付候事

付りの嫡子御(マヌ、雁カ)の部、手人差問有之候へは申出の上御付人被仰付候事

騎馬隊の銘々も陸立二被仰付候 尤も惣軍見合の乗戦士番頭・小荷駄奉行・陣場奉行の儀は乗騎馬二被仰付候事  
此度は儀は足持に出、シ二及不申候事  
御凱陣の儀は於目下拜礼有之候所へ屯可申候事  
陣笠・陣羽織・小袴、具足下夕・胴着着用

従者支度覚

一股引祢(移カ)二しからけの事  
付り筒袖・葦山形持合の銘々着用不苦候  
半被柿色黒相除キ其外勝手次第、尤主人の印を付ケ候事  
田子平笠主人の印を付候事  
十一月

城一隼雄・窪田四兵衛記

目拜礼 閱兵の意  
陸立 徒立、歩行立 徒歩  
凱陣 戦に勝つて引き揚げる  
具足 下 鎧の下の着る小袖  
胴着 上 着と襦袢の間に着る防寒用の衣

【100頁】

半被 半纏、まくりあげる

同(文久三亥十一月)十一日

御所用の儀有之候段申来候 二被迄御様式台事三来ル郎候 儀二被仰付候早速及其人段御奏者 中此度え相達候様と人の詰

城一隼雄・窪田四兵衛

同九日

御家来中拜領の御紋服、袖を縮メ明服二相用候て不苦候事  
十一月

城一隼雄・窪田孫兵衛

\* 明服あけふく 喪服

同廿一日

文立武下候古引立二付出 被立後無人間御仕、ケ法替四二月付一 其右人御丈仕、は賄二筋入込 勤の部弁当米ケ御ケは、差不出、被仰付候は、其節移出 哉、を聞仰候付候依之、意相達候事

栗山半左衛門・窪田孫兵衛